OMC News 大阪ムービーサークル

ＯＭＣ事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫　TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20　前田茂夫　TEL072-850-5781
http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/

平成１９年１２月（2007 年）No.５０４

今年を振り返って

遂に７０％を越す作品がハイビジョン化
明るい映写環境の整備が最大要因か

会長　合原一夫

平成１９年度も、この１２月例会でいよいよ終わりを告げ、平成 20 年度を迎えますが、この 11 ケ月を振り返ってみたいと思います。

今年の特徴は何と云ってもハイビジョン作品の著しい増加が挙げられるでしょう。一昨年、ＨＤＶ作品は１２％、昨年は４４％と急増し、そして今年は何と７１％と、３分の２以上がハイビジョン作品となりました。それに引きかえ、従来型の４：３作品は、一昨年が６５％、昨年が２９％、そして今年は１５％と激減してしまいました。

この要因は、比較的手に入れ易いＨＤＶカメラが入手できる様になったことや、シャープで美しい映像を例会で見せられることで、自分もやってみたいという熱心な会員さんが増えたことが考えられます。また、例会でのＨＤＶ上映機材の整備が寄与していることは云うまでもありません。

当初はＨＤＶを上映するには自分でカメラを持参して会場で再生するわずらしさがあったこと、明るいプロジェクターが無かったこと等があります。こうした上映環境にもかかわらず、常にリーダー的役割を演じてきた前田会員の功績が大きかったと思いますし、ＨＤＶデッキと明るいプロジェクターのご提供をして頂いた黒田先生のご好意が一層ＨＤＶ化に拍車をかけたのだと考えられます。

いずれにしても、来年へ向けてより美しい映像でビデオを楽しみたいこと、そして日本でもリーダー的な存在であるＯＭＣ公開映写会で一般の方々にも楽しんで頂けるような立派な作品を作っていただくこと、並びに会員諸氏が元気で明るい年を迎えられます様、祈念してやみません。

１２例会のお知らせ

１２月例会は第４土曜２２日午後 6 時より、難波市民学習センター（ＪＲ難波駅上ＯＣＡＴビル４階）で開催します。今年最後の例会です。２次会も楽しい月一度の集いに、どうぞお集まりください。
次年度会費 8,000 円納入の方もよろしく。

全国コン受賞
おめでとうございます

◎第７回彩の国埼玉全国ビデオコンテスト
入賞（春日部市文化連合会会長賞）
「愛は国境を越えて」　西村光雄さん
入選
「送り火」　前田茂夫さん

彩の国埼玉全国映像コンは、全国のアマチュア映像作家も応募し、かなりレベルの高いコンテストになっております。このコンテストは賞金などは出ませんが、映像仲間のうちでは評価の高いもので、価値ある受賞と云えるでしょう。あらためて、受賞おめでとうございます。

■この一年、ＯＭＣニュースに記載もれのあった受賞者が居られましたら、広報までお知らせ下さい。

■新年会出欠ハガキは年内に投函をどうぞ
ＯＭＣニュース１２月号に同封の新年会出欠ハガキは、１２月例会日に会長へ手渡ししてくださるか、年内にポストに投函して下さい（会費 5,000 円）。

■１月例会と新年会は１月１４日（祭日）
１月例会は会場の都合で第２月曜日 14 日（祭日）の午後１時からになります。会場はいつもの難波市民学習センターです。この日は例会後、総会と年度賞等の表彰式を行います。総会後すぐ上階のスーパードライ難波で新年会を開催します。昼間の例会には所要で欠席の方も夜の部の新年会にはぜひお越し下さるようお願いします。

■平成２０年度の会費納入をお願いします
前年同様年会費 8,000 円を 12 月例会時に会計へ納入して下さい。皆さんの会費が会の運営をまかなっています。

第22回日本を縦断する
映像発表会　１月２２日（日）

恒例の日本を縦断する映像発表会の第 22 回目が 1 月 22 日（日曜）12 時より、大阪市立中央図書館にて開催されます。今回は有村、安居、前田の各氏が出品されています。

全国の映像仲間の作品を見るのは、自分の作品づくりの上で大変参考になるものです。どうかご友人、ご家族お誘い合わせの上ご来場いたゞきますようお願いします。

１１月例会レポート

紅葉もやゝ終りかけた晩秋の例会日、朝夕めっきり冷え込むなか、昼間は比較的気温も高めのしのぎ易い秋日和でした。気候がよいので旅をされている方が多いのか例会にはいつもより数名少ない 24 名の出席で、２月、５月の 24 名と並ぶ低い出席者と作品も５月の 11 本に次ぐ 12 本という少ない出品数でした。江藤さんが今年３回目の出席をはるばる岡崎からかけつけて頂いた反面、無欠席だった関さんが”ぎっくり腰”をやっちゃったとかで休まれました。どうか早く直られます様、祈っています。皆さんも、お互いにトシですから？無理なさらないで自分の体をいたわって、いつまでも元気でいて下さい。

さて、今月の司会は吉岡さん、書記、合原さん、受付兼照明係、宮崎さんと進藤さん。機材担当はいつものご三方、河合、江村、増池の３氏にて会を進行しました。今日は作品が 12 本と少なかったので、司会の吉岡さんも１作１作、作者のコメントや会員の声、司会者の寸評などを述べられ、ゆっくりした本来型のＯＭＣ例会が再現されました。たまにはこうした例会もいいですね。

■出席者：有村、井上、江藤、江村、奥、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、西井、錦、西村、華岡、藤原、増池、松本、宮崎、森口、森、森下、安居、吉岡、以上の２４氏（敬称略）。

■上映作品（今月の講評は合原会長です）

１．大阪のあかり（改作）
増池　茂さん　　6分55秒

先月発表され皆さんのご意見を聞かれて再編集されたもの。前作が 10 分だったのを凡そ 3 分縮められました。その分整理されて良くなりました。本作品はそれでもまだしっくりとけ込んでいない面があります。夕景から夜へ至るカットにスムースに時間の流れが沿っていないのも気になりますので、この辺りをもう少し縮めて、夕景からすんなりと夜へ移っていった方が素直

に受けとられるでしょう。夕陽をバックに、カップルの後姿のシルエットは印象に残りました。こうした夕景のロマンや淋しさを表現するカットがあれば、より印象に残る映像になるに違いありません。夜のあかりは、やはり”華やかさ”でしょうか。夜のネオンに浮かれた人々、人を惹きつける誘蛾灯のような光や看板、大阪らしい”あかり”は大阪城や中之島の建物ではなく、道頓堀等の繁華街にあるのではないか、作者の「大阪のあかり」と題する映像を拝見しながら、ふと、そう思いました。もっとも私には、寒い師走の街にカメラと三脚をかついで出掛ける元気さは湧いてきませんが。

2．みちのく芸能まつり（ワイド）
紙本　勝さん　　10分00秒

先々月拝見した「みちのく芸能鹿踊り」の続編だそうで、今度のは街の中へ出かけ大通りで演じるいろんな郷土芸能を披露する踊りを撮られています。結構見物客が多くて、一度撮影場所を確保するとカメラの移動が難しいとのこと。それにしてもロングありアップありミディアムありで、さすがベテランの紙本さんの作品でした。最初は昼間でしたが、いつの間にか夜のシーンに変わっていました。司会者も云っておられましたが、こういうお祭の映像は、長々と撮影しているので、どこで切ってどうまとめるか編集に頭を痛めるものです。観客を惹きつける祭の映像のまとめ方、紙本作品には、そうしたヒントが隠されている様です。一方、ピントの甘いカットが何箇所かありました。

3．青龍会（ワイド）
森口　吉正さん　　9分10秒

京都清水寺でこの 9 月 15 日撮影された珍しい行事（お祭ではないそうです）で見事な龍が境内や町内を練り歩く様子は、へぇー、京都のお寺さんにもこういう行事があったのか、と初めて見る光景でした。

名水紀行の森口さん、やはりこの青龍会も名水に関係がありました。境内に音羽の滝という名水が湧いているのです。その滝の前で長さ 15 メートルもあろうかと思われる、10 人掛かりでかつぎ上げた龍が舞う様を近くからよく撮られていました。町でも寄進した茶店に龍一行が立寄るとの情報で先回りして場所取りされたという作者の熱心さに脱帽いたしました。

4．コウノトリ翔ける空に（HDV）
進藤　信男さん　　7分55秒

平成 18 年度年度賞受賞作「雪の日も雨の日も」の再構成作で、今年新しく放鳥シーン等も撮り足して作り直された作品です。豊岡市でコウノトリを自然に帰す取り組みに的を絞って短く再構成されたので判り易く、見る人をすんなりと惹きつける作品になっています。字幕も整理して字数を減らされているので読み易くなりました。

コウノトリを自然に回帰させようと取り組んでおられる人たちのご苦労もさることながら、撮影に何度も出掛けられている作者のご努力にも敬意を表します。

5．被災犬は今
安居　利次さん　　7分45秒

あの大震災から既に 12 年ですか、そして奥さんが亡くなられて早や４年になりますか。時の経つのは早いものですね。震災の後引き取って育てた当時２才だった犬が今や 14 才、人間の歳で云うと 70 才位だそうです。今や息子さん夫婦に引きとられて老後を若いラルちゃんという犬と共にゆったり過ごす、かつて亡き奥さん共々可愛がってきた愛犬の、その後の物語です。４対３映像の過去の映像を横長のハイビジョン画面にうまく活用されています。両側は単色ではなく主張の少ない模様を出されたのがよかったと思います。工事の振動や降雪におびえる犬のシーンだけが、何故オリの中なのか少し違和感がある、という司会の言葉がありました。またナレーションが犬の立場で語っておられるが、題名が全くの第三者的なのも気になると云えば気になるのですが・・・。まあとにかく秀作でした。

6．ファィヤーワークス・ファンタジー（立体HDV）井上勝彦さん　　5分58秒

大変手間のかかる高度な技術を要する立体画像です。赤青フィルターめがねを全員に配られて立体画像の花火を観賞させて頂きました。ハイビジョンカメラ２台を使って撮影されたそうです。こういう立体映像は井上さんだからこそ実現可能な分野には違いありません。たゞ花火の音を一切消去

して BGM だけなので、花火の持つ迫力がないのが残念に思いました。むしろ花火の３次元的な腹に響くような音があれば、より立体映像が活きたと思うのですが、無理な注文かも知れませんね。

７．コスモスの般若寺（HDV）

奥　宏さん　　4分37秒

コスモスの花は何とも淋しげな花、お寺の境内によく似合います。題名はコスモスが形容詞で般若寺が主役ですが、寺を形容詞にした「般若寺のコスモス」としたらコスモスが主役になります。どうもこの作品は後者のように思いました。トップシーンに作者が急ぎ足で歩いて来て通り過ぎるカットがあり、その後は作者の出番は見受けなかったように思いますが、ここは、ゆっくり歩いてきて立ち止まり、ゆっくり腰をおろしてコスモスや寺を見る、そしてラストに、作者が立ち上がってゆっくり去る後ろ姿でもあれば物語り的になったのではないか、そんな思いに駆られました。人物の後姿は何か人生の淋しさを表現するものです。コスモスの持つ何とも云えないはかなさ、淋しさと重ね合わせて奥行きのある映像になりはしないか、私にも考えさせられる参考になる作品でした。

８．黄龍を歩く（HDV）

有村　博　　8分40秒

中国四川省黄龍は富士山と同じ位の高度3,500 mほどにある世界自然遺産だそうです。今は飛行場やロープウエイが出来て、一息に高いところに行けるので、高山病にかかった同行の人もいたとか。寒い雪の中、酸素も薄いところでさすが山好きな作者も、いささかハードな山歩きだったようです。

風景は石灰岩によって気の遠くなるような年月を経て形作られた棚田模様の湖が並び、世界遺産にふさわしい風景をかもし出していました。観光客は一杯居たとのことでしたが、画面にはほとんど出てきません。酸素が薄いというナレーションが最初の方にありましたので、ラスト近くで酸素ボンベを出して吸うマネをする作者の姿は不要のように思いました。登場人物が突然出てくることへの違和感でしょうか。それにしては有村さんの健脚ぶりに脱帽です。

９．青森ねぶた（HDV）

上総　修一郎さん　　10分40秒

今年、観光客でごったがえす青森のあの有名な祭「ねぶた」祭を撮ってこられました。遠くまで出掛けられて撮影して来られるお元気さは健在のようです。

開始前の普段着出場者の姿から撮影されており、いい場所にカメラを据えてパレードを撮っておられます。何でもビデオが好きそうなお巡りさんが場所取りに協力してくれたとの事。上総さんの人徳でしょう。

後半は場所を移して撮っておられますが、少々暗い街の通りに灯りをつけたダシが遠くに通るのですが、露出がオートだったのでしょうか、かんじんの主役のダシが真白くなっていました。ここはダシの灯りの照度にあわせたマニュアル絞りが欲しかったところです。又、画面に最初から最後までカウントが動いているのが入っていましたが、パソコンから書き出すときの失敗でしょうか。例会間際に完成して未確認のまゝ持参されたのでしょう。

10．火生三昧（改作）（HDV）

河合　源七郎さん　　9分41秒

前月発表されたものの改作とか。２年がかりの大作です。三重県紀伊長岡町の有久寺で毎年行われている大護摩の法事の記録です。山伏問答、大護摩作法、弓矢や斧の作法、宝剣の作法などいろいろな所作の後たいまつで護摩たきが始ります。最後は素足で火渡りです。難しいテーマをよく根気よく撮影されたものと感心いたしました。

11．よさこい

森田　光春さん　　10分00秒

土佐の高知の「よさこい」を撮ってこられました。良いカットがあるのだから編集をもう少し丁寧にしたら、との声があちこちからあがりました。音割れも気になるところです。

12．夏の余部

江村　一郎さん　　6分00秒

前田さんと江村さんの余部シリーズは、もういうことなしの合格パスです。いよいよ橋の架け替え工事が始ったなというカットが今回のは追加されました。余部駅上のお立ち台は今年一杯は行けるようです。うまくまとめられた手馴れた作品でした。